

有志舎の新刊です。2013年1月下旬発売

兵士はどこへ行った

— 軍用墓地と国民国家 —

原田敬一 著

四六判・ハードカバー・330ページ 本体価格 2,600円

戦死者追悼のあり方は、本当に世界共通なのか？ 世界各地の「軍用墓地」調査を通して見えてくる様々な追悼の姿から、戦死者と国家・国民のあるべき関係をあらためて考える。

(目次)

プロローグ

- 第Ⅰ部 軍用墓地とは何か（軍用墓地という「軍事文化」、軍用墓地と日本の近代、帝国の軍事文化、戦争の終わらせ方と軍用墓地 小括・戦争の終わらせ方と軍用墓地問題）
- 第Ⅱ部 日本の軍用墓地（「万骨枯る」空間の形成—六鎮台の陸軍埋葬地—、「水漬く屍」のゆくえ—海軍埋葬地—、軍人の墓—イエ・ムラ・静岡陸軍墓地—、軍用墓地の戦後史、小括・軍隊と戦争の記憶）
- 第Ⅲ部 欧米とアジアの軍用墓地（国家的顕彰と国民的和解—アーリントン「国立墓地」—、軍用墓地の創始—英連邦の王家・国家・国民—、ドイツ圏の軍用墓地、戦後アジアの軍用墓地 1—台湾の場合—、戦後アジアの軍用墓地 2—韓国の場合—、小括・国民にとっての軍用墓地・国立墓地

エピローグ

<著者紹介> 1948年生まれ、佛教大学歴史学部教授

～版元から～

なぜ人は戦場に赴かねばならないのでしょうか。「国家を維持するため」「故郷と家族を守るため」という常套句だけでは当事者たちは癒されないと近代国家は考え、そのために戦死者を追悼する空間を設定し、「愛国者」として記憶するよう国民に求めました。しかし、その方法は果たして世界共通なのでしょうか？ 日本ばかりでなく、韓国・台湾・アメリカ・ヨーロッパなど世界各地の軍用墓地や追悼施設を調査し、その来歴と現状を見つめながら、現代国家とそこに生きる人びとを今も拘束し続ける戦死者追悼の問題を考え直したいと思います。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10、宝栄ビル 403 (有)有志舎 電話:03-3511-6085

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	兵士はどこへ行った — 軍用墓地と国民国家 — 原田敬一 著	日本史 現代史
	ご担当	四六判・ハードカバー、330ページ 本体価格 2,600円	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様	新刊 ISBN978-4-903426-68-6 C1021	

ご注文は 有志舎 担当：永滝（ナガタキ）まで FAX：03-3511-8484

当社商品の取扱取次はトーハン・JRC・八木書店ですが、日販・大阪屋ほか、いずれの取次でも上記取次経由で送品します。なお、JRCからも同じ注文書が重複して送られた場合は、この弊社あての注文書だけをご返信いただければ結構です。